

巻頭
言

どこに行くのか自由民主党

会長 山崎 學



想像していたことが現実になった。岸田文雄前総理が万策尽きて退陣表明を行ったところから喜劇が始まった。おのれの総理続投をもくろんで政治資金報告書未記載をマスコミと組んで「裏金問題」と矮小化し、安倍晋三元総理が亡くなって派閥の統制が緩んでいた清和会をターゲットに派閥解散に追い込み、派閥悪玉論で派閥を解散させた。しかし外交問題が得意と自負し、経済政策失敗で実質賃金は下がる一方の国民から「No」をつきつけられ、やっと年貢をおさめた。その結果、立候補に必要な推薦人20人以上の国会議員を集めた九人が総裁選に立候補するといった乱戦状態になった。先行馬が出てレースを引っ張り、マスコミ受けする自称サーファーが続く、デジタルオタク、媚中エステ好き、五度目の挑戦と多士済々のにぎやかさになった。直線に入って五度目の挑戦、自称サーファー、保守本命女性総理を目指す三人が終盤から抜け出した。第一回投票では高市早苗候補が石破茂候補を抑えて一位になり、三人とも過半数に達しなかったもので上位二人による決選投票になった。しかし、ここで今までの自民党総裁選で行われていなかった上位二人による五分間のスピーチが急きょ行われることになった。これは今回の自民党総裁選に先立って行われた立憲民主党の代表選を見習ったという。五分間スピーチをあらかじめ聞かされていた石破候補と寝耳に水の高市候補の差は歴然としたものになった。結果として大方の予想に反して僅差で石破候補が逆転して自民党総裁に選出された。舞い上がった石破議員は天皇陛下の任命を受けていない一議員なのに次期衆議院選挙の日程を勝手に決めてしまった。

この選挙結果を受けて高市候補の靖国神社参拝発言が投票行動に影響したと報道されたが、いつからマスコミ中心に中国の機嫌をおもんばかる国に成り下がってしまったのか。靖国神社のA級戦犯合祀が報じられた1979年以降に首相の靖国神社参拝は大平正芳、鈴木善幸、中曽根康弘といった歴代首相が計21回公式参拝をしている。こうした事実を報道しないまま一部の新聞が中国に御注進に及んでから首相の靖国神社参拝があたかも外交問題の象徴になってしまっている。アメリカの戦没者慰霊施設であるアーリントン国立墓地には天皇陛下を始めとして歴代総理、野党代表も献花を行っている。戊辰戦争以来の国家のために殉じた英霊を辱める論調は直ちに改めなければならない。また総裁選で石破総理大臣は来年度予算委員会を開催してから次回衆議院選挙を行うと発言していたが、世論調査で自民党支持が大幅に下がっていることを危惧して、捨て身でご祝儀相場頼りに抜きうち解散に打って出た。またマスコミが鐘や太鼓ではやしている「裏金問題」に乗って、清和会を中心に約40人の議員に公認取り消し、比例区重複立候補取り消

し処分を行って衆議院選挙に臨むという。冗談じゃない。「裏金問題」は検察による捜査でおおかた立件されなかった調査済み案件であり、加えて党による活動自粛等の処分が継続中である。いつから立法府の一員が司法権限にまで言及するようになったのか。こうした問題行動に対してマスコミ含めて何の疑問も示さずに受け入れている社会の風潮のほうが危険である。

政治資金規正法改正についても2026年1月まで実施を先送りして、1,000万円未満のパーティー収入については購入者の報告義務のないままと抜け道だらけ。公職選挙法の定めるウグイス嬢の日当は1万5,000円で据え置き。朝8時から夕方8時までの12時間労働なのに1万5,000円でウグイス嬢が集まるはずはなく、「裏金」を充当して3万5,000～4万円の実質手当を支給していたと聞く。先月2024年10月に行われた衆議院選挙について与野党含めてウグイス嬢の日当調査を全候補に行ってみよう。そして違反した議員は公職選挙法違反で立件しよう。また与野党議員のパーティー券の外国人購入者について国籍・個人名を調査しよう。さらにちまたでいわれている野党の政策秘書の給与について出身母体からの給与と政策秘書給与の二重取り疑惑についても調査して「政治と金」の問題にはこの辺でけりをつけなければならない。中国が我が国固有の領土である尖閣諸島に対して領海侵犯を繰り返し、ロシアは北海道空域で領空侵犯を行うといった我が国の領土・領海・領空を侵犯されているのに、国会は「裏金問題一色」では亡国の一途をたどっているとしか思えないからである。